

# かさまつ応援寄附金（ふるさと納税）活用実績報告書



## 皆様の温かい心も一緒に灯して“明るいまち”を築きます



笠松町長 広江 正明

毎年全国の皆様から温かい応援をいただき、平成26年度には

**5,022件、総額36,931,001円**の

ご寄附をいただきました。本当にありがとうございます。

ここ笠松町は濃尾平野の北東部に位置し、木曾川を隔てて愛知県と接する県境で、約22,000人が暮らす閑静な住宅街が広がるまちです。かつて江戸時代から明治時代にかけて木曾川筋最大の重要な湊町として栄えた歴史を持ち、この地域の商工業・政治・文化を牽引してきたまちでもあります。

その歴史と文化を継承しつつ、「個性」を活かし“調和”を大切にしたまちづくりを進める中、皆様からのご寄附を、明るく安全で快適なまちづくりのため「街路灯」の購入費として活用しましたので、ご報告させていただきます。

「清流木曾川に抱かれた“ひと・まち・自然”輝く創造文化都市」の実現に向け、また皆様の“もうひとつのふるさと”笠松町への変わらぬ応援をいただけるよう、誠心誠意努力いたします所存でありますので、どうぞ、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年9月

# 1. かさまつ応援寄附金（ふるさと納税）の状況 寄附件数・寄附金額の推移

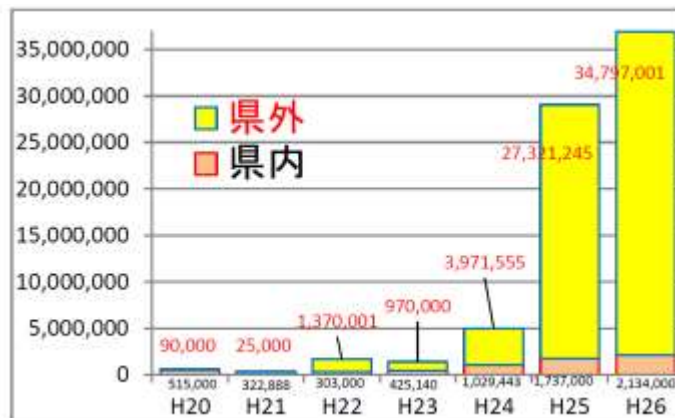
年度	合計		うち県内の皆様		うち県外の皆様		基金利息 (円)
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
H20	20	605,000	17	515,000	3	90,000	—
H21	14	347,888	13	322,888	1	25,000	1,512
H22	85	1,673,001	15	303,000	70	1,370,001	668
H23	110	1,395,140	26	425,140	84	970,000	791
H24	464	5,000,998	62	1,029,443	402	3,971,555	1,002
H25	3,550	29,058,245	148	1,737,000	3,402	27,321,245	2,256
H26	5,022	36,931,001	238	2,134,000	4,784	34,797,001	72,517
計	9,265	75,011,273	519	6,466,471	8,746	68,544,802	78,746

平成26年度末「かさまつ応援基金」現在高 **40,602,539 円**

図1：寄附件数の推移



図2：寄附金額の推移



平成26年度 都道府県別 寄附状況



平成20年度から平成25年度の6年間に4,243件 総額38,070,272円のご寄附をいただき、平成26年度には、積み立てていた「かさまつ応援基金」のうち34,487,480円を活用し「笠松町公共施設巡回町民バス」の購入費として活用させていただきました。

平成26年度は、それまでの合計金額に迫る36,931,001円のご寄附を全国の皆様からお寄せいただきました。

また、地元事業者とパートナー事業としてご寄附いただいた皆様に感謝の気持ち「ふるさとかさまつ宅配便」をお届けしておりますが、平成26年度までの7年間の累計で、【13,002個】のお礼の品を全国の皆様にお届けすることができました。

## 2. 笠松町の街路灯 の概要

- (1) 購入する街路灯：LED防犯灯 (メーカー：パナソニック NNY20452LE1・10VA)  
重量1.0kg 長さ381mm 高さ52mm 幅100mm



従来の街路灯と比較すると、年間電気料金は約7.5%の削減がはかれるほか、照明器具(光源)の寿命は約5倍長持ちすると想定しています。

また、周囲の明るさを検知する「明るさセンサ」を搭載し、自動的に点灯・消灯を行います。

蛍光灯や水銀灯に比べて、虫の誘引も低減するため、病害虫などの発生の抑止にもつながります。

- (2) 購入財源：すべて「かさまつ応援寄附金(ふるさと納税)」を活用します。

購入基数 平成27年度末までに3,100基(予定)

購入総額 23,436,000円(予定)

- (3) 街路灯の状況

笠松町では、平成6年度から明るくて安全なまちづくりの推進、町のイメージアップ、町の活性化等に資することを目的に、通学路を中心に「街路灯」整備を進めてきました。

整備を進める前は1,300基ほどしかなかった街路灯は3か年(H6~H8)の計画で町全域に約3,000基を設置するまでになりました。その後も交換や増設等を行ってきましたが、長期計画の中で効率的かつ経費を最小限に抑えられる街路灯に変更することとなり、平成28年3月末までに約3,100基すべての交換を完了する予定です。

従来設置していた街路灯は、笠松町をイメージする「松の葉」のデザインでしたが、今年度購入したLED防犯灯はシンプルなデザインの中に、歴史と文化を継承する街並みにも溶け込む灯りを提供してくれています。



# かわらぬ応援そしてさらにまたつぎも応援いただけるように



お礼の品「ふるさとかさまつ宅配便」は65品。岐阜工業高等学校の生徒が考案したマークには感謝の気持ちがつまっています

古くから笠松の名産品として知られた木綿織物に「美濃縞<sup>みのじま</sup>」がありました。江戸時代から農閑期の副業として織られてきた紬織で、縞のように織られたことからそう呼ばれています。

美濃縞は、「菅大臣縞」「棧留縞」「美濃結城」をはじめ、「加比丹」「武蔵織」などを総称していわれてきました。開発・工夫がなされて用途も多様化しました。明治になるとますます発展し、斬新な織物として高い評価を受けました。明治末には原材料に綿や絹の他に毛・麻なども使い、時代の変化に合わせて「緋」「無地染」「白生地」を生産する者も多くなってきました。大正11年(1922)頃は、美濃縞織りの最盛期でした。

笠松では織物工場が年々増加し、明治14年(1881)に織物製造業者の組織が設立され、美濃縞などの品質を高めるために明治43年(1910)岐阜県工業試験場の第1分場が建築され、大正15年(1926)には、技術者養成のため「岐阜県第一工業学校」が建設されました。

時代の流れとともに、海外での製品作りが活発になると国内生産は少なくなり、笠松町でも大きな紡績工場は少なくなりましたが、繊維を扱う製造業や繊維や衣服を扱う卸売業・小売業が多くあります。また、商業の町らしく和菓子を扱う菓子店や、老舗の飲食店が目立ちます。近年は、繊維以外にも、食品製造業や機械系産業、航空宇宙産業などのハイテクメーカーもあり、新時代の工業を担うものとして期待されています。

ここ笠松町には、高等学校が1校あります。それが「岐阜県第一工業学校」として開校し、今年度創立90周年を迎え、『笠工(かさこう)』の愛称で親しまれる「岐阜県立岐阜工業高等学校」です。

笠松町の「かさまつ応援寄附金(ふるさと納税)」は、平成20年度の制度創設時から、5,000円以上ご寄附いただいた皆様にお礼の品「ふるさとかさまつ宅配便」をお届けしていますが、その「ふるさとかさまつ宅配便」の共通マークを、「岐阜県立岐阜工業高等学校」のデザイン工学科3年生10人が考案してくれました。このマークは、お届けする「ふるさとかさまつ宅配便」に、シールとなって貼られています。産官の取り組みに“学”のアイデアを合わせた「産学官」のスクラムで取り組む笠松町。皆様から変わらぬ応援をいただけるよう、そして、さらにまたつぎも応援いただけるよう精一杯取り組んでいきます。

引き続き、笠松町への温かい応援をよろしくお願いたします。

